

地球の後継者として



保護者の皆さま、ご卒園おめでとうございます。

自然界が、躍動するこの時に責任をもって子ども達を卒園させることができ職員一同喜びに絶えません。

この一年間、子ども達は散歩や遠足を通して園の中では見られないような開放感を味わい。また、四季折々の昆虫や植物、小鳥たちとも出会ってきました。そのたびに子

ども達は、草花の小さな発見をうれしそうに報告しあったり、みせあったりしました。葉っぱや木々についている小さな虫の抜けがらさえ、子どもたちにとっては大発見であり宝物でした。

そして、友だちとぶつかったけれど、それを乗り越えたとき、本当の自分への信頼、友だちへの共感がはぐくまれ、その力や喜びが、次に「もっとこんなことをしたい」「こんな自分になりな」と新しいことに挑戦していくエネルギーになっていきました。



仲良し菜園では、畑のお世話をするという最も地味な、そして根気のいる作業をやり通してくれました。

自然の営みに触れて実学してきたことで知力、体力、精神力、感受性がやしなわれました。自然とともに生きていく暮らしを体験することは、人間養成にとってきわめて重要ことです。

子ども達は、夏合宿を終えたころから、自分の意見や思いを伝えつつ、相手の意見や思いを聞き取り、そこに食い違いがあっても、互いにすりあわせて折り合いをつけていくことが 少しずつ できるようになってきました。

また、友だちのいい面もしっかり見ていくなど自分や友だちのことを多面的に見ることができるようになってきました。

運動会では、できない自分と葛藤しながらも小石を一つ一つ積み上げることの大切さや、一等より尊いものがあることを学んでくれました。

秋、そして二月の発表会を終えてから、さらに自分に自信がついてきた姿を見せてくれました。

保育者が誘わなくても仲間が集まり、自分たちで

遊びのルールをつくったり、遊びを広げる工夫をしながら楽しむようになってきて集団としての結束が強まったようでした。



冬合宿を終えてからこの一ヶ月間、子ども達は入学という新たな段階に向けて新しい自分をつくりなおしてきました。ときに、ちょっと立ち止まり、ちょっと「逆戻り」したり、反抗したり、かと思えば 甘えたりするような姿を 見せてきました。新しい自分をつくるということは、どこかで 今までの自分を こわさないといけない、つまり 古い自分とたたかう姿を 繰り返してきました。

最近、保育は理屈ではなく、感性が決めてだと思えるようになってきました。私たちは 何度もつまづきながらも、必死に 子どもの心のさけび、願いに向き合い、子ども達の小さな心の動きを 拾い集めながら、保育を実践してきました。また、どんなに だだこねをしても 辛抱強く受け止め、身体が「心地よさ」を感じるまで つきあってきました。そんな体験を積み重ねた子ども達は、今自分の思いを受け止められる喜び、聞き取られる喜びをベースに今度は相手の言葉を聞く姿勢を自分のものにしてているのだと思います。子どもたちはこの一年間、まさにこうした関係の中で 自分をステキに育ててきました。

子ども達は、今仲間のなかで自分らしさ「幸福」を感じながら生きようとしています。そんな子ども達のなかにある自分らしく生きたいというエネルギーを信頼し、その力をステキに引き出していく責任 同じ時代を生きる私たち大人はおっています。

わが子を抱きしめる。小さい体はもちろん思いも感情もぜんぶ抱きしめる。

小さいときの思い出はあまり残りませんが、あたたかい胸の中や膝の上でおぼえた安心感 は いつまでも忘れません。

子どもがいちばんほしいのは、あたたかさやさしさと、信じてもらえる安心感です。だから 心の豊かな子どもに成長するためには、大人から豊かなことば豊かな心をいっぱいもらうことが大切なのです。

すべてを包み込んでくれる人、ゆっくりとやさしく流れる時間、あたたかい陽だまりのある場所。そこが心の帰るところです。

子どもの育ちには、無条件に幸福を実感できる関係は欠かせません。大人になってからあの子ども時代に戻ってみたいと思えるようなあたたかでやわらかく幸せな時間をこれからも子どもと一緒に手づくりしていただきたいと思います。「心の帰るところ」をもっている人は怒りや批判や注文ばかりの人生を歩くことはきっとないと思います。

子ども達はこれから心を磨くためのさまざまな試練に出会います。それをどう乗り切るかに、子ども達のこれからの人生の成功はあります。

苦難、困難という試練に遭遇しながらも決して不平不満を言うことなく、自分の向上心を試そうとする試練だと受け取り、感謝をしつつ、前向きで明るく素直に努力を続けていく人は、結果として素晴らしい成功と明るい未来を必ず勝ちとることができます。

職員一同、いつまでも子ども達の人生が上手くいくよう祈っています。

最後になりましたが、今年度の行事を年長の親として推進していただいたことにあつく御礼申し上げます。園長の祝辞といたします。